



第 67 回岩手大学 COE フォーラム

岩手大学 21 世紀 COE プログラム「熱-生命システム相関学拠点創成」では、関連分野において国内外で活発に研究をされている方をお招きしてフォーラム（セミナー）を開催しています。今回は、北海道大学大学院水産化学研究院の嵯峨直恒先生をお招きし、海のモデル植物とも言われるスサビノリの生活環の研究における分子生物学的アプローチについてお話をさせていただきます。普段あまり触れることのない海中での生物が示す興味深い生活の様子が覗けるとおもいます。

お忙しいとは思いますが、多くの方々にご参加いただきますようご案内申し上げます。

第 67 回担当・農学部附属寒冷バイオフィロントニア研究センター
上村 松生 uemura@iwate-u.ac.jp

日時：2008 年 6 月 20 日（金）16:45～18:15

場所：岩手大学農学部 2 番教室

嵯峨 直恒 氏

北海道大学大学院水産科学研究院
海洋応用生命科学部門育種生物学分野

海のモデル植物スサビノリ ～とくに生活環の起源と進化について～

Porphyra yezoensis as a Model for the Study on Origin and Evolution of Life Cycle

アマノリ属を含む紅色植物は、生活環のパターンの多様性に富むことから、生活環の研究を行うのに適するモデル植物といえる。生活環のパターンには、例えば、①ボディープラン、②生殖、③世代交代に関する様式のようないくつかの主要な要素により決定される。①については細胞分裂、細胞極性、細胞分化、細胞接着、多細胞系の形成、形態形成、分裂細胞の誘起・維持、器官形成等が、②については無性の生殖細胞の形成、性分化、性決定、接合、減数分裂等が、③については世代の分化、世代の決定、アポミキシス等、研究者にとってたいへん魅力的な生物学的現象が存在する。近年、スサビノリは、室内での大量培養の容易さ、世代時間の短さ、そしてゲノムサイズの小ささ等の利点を有することから、遺伝学や分子生物学等先端的研究を行うのに適する実験生物として注目されている。本講演では、植物の生活環の起源と進化を研究するために適切なモデル植物スサビノリについて簡単に紹介する。